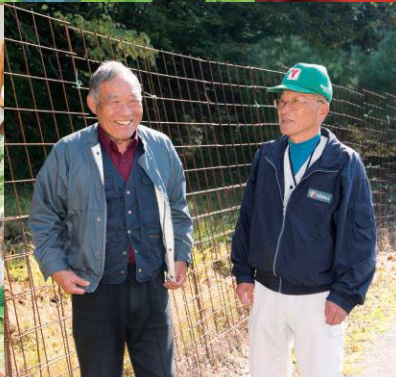


# 晴れ☀ひと ファーム

中山間地における  
農業・農村活性化優良事例集

岡山県





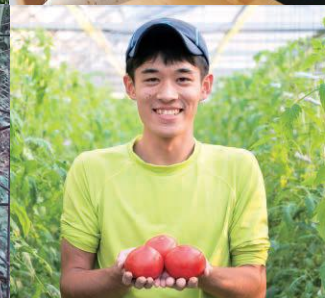
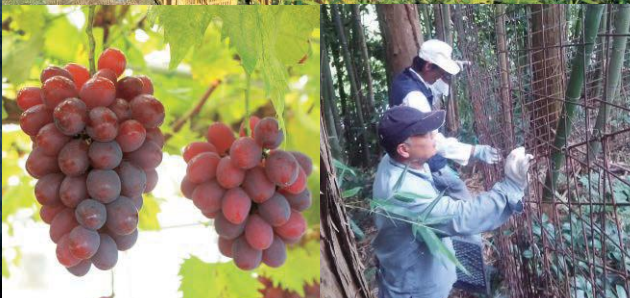
笑顔で楽しく農業を。  
そして、元気な地域にするために。





## 晴れの国おかやまの農業人「晴れひと」 みんなで未来を一緒につくる。

農業や地域活性化の取組が結実するためには、何が必要でしょうか。  
 きっと正解は、一つではないはずです。  
 ただ、一つ言えるのは、みんなが協力し、一つの目標に向かって進むこと。  
 明るい未来を夢見て胸を熱くする人たちを応援したい。小さくても何か変化を  
 起こす糸口になったり、今ある取組をもっと練ったりするきっかけになれば。  
 そんな願いとエールを込めて、先駆者たちの15の取組をご紹介します。



### INDEX

- 都市住民との交流 ..... P03
- 新たな人材確保 ..... P11
- 6次産業化・農産物加工 ..... P06
- 協働で支え合う体制づくり ..... P14
- 集落営農 ..... P09

# 都市住民との交流イベントで 地域活性化

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

久米南町

北庄中央棚田天然米  
生産組合組合長  
西河 明夫 さん  
(にしかわ あきお)「皆で分けあってほしい」  
との思いから小分け包装に

## 笑顔を集めて「苦農から楽農へ」、 地元組合員と棚田ファンがタッグ。

### 人々の交流が生み出す棚田再生の好循環。

日本一の面積を誇る「北庄の棚田」は、離農による人手不足から耕作放棄地が増え、その復田と維持が課題でした。そこで地元組合と、棚田ファン支援グループがタッグを組み、協働で景観再生と稲作を開始。田植えから脱穀までを手作業中心に農業を減らして栽培された「天コン(櫃干しコシヒカリ)」は高評価を受け、流通販路も磐石です。また地元小学校と連携した「田んぼの学校」は地域文化を学ぶ場、情操教育の場に。「どろんこ運動会」「収穫祭」などのイベントは都市住民の「里山で農業体験してみたい」というニーズに合致して新会員も増加。人々の交流が進むほど棚田は美しく爽り、地域が元気になる好循環が生まれています。



### きっかけ

1994年に棚田保全のため農家25戸で組合を設立。「日本棚田百選」に認定され観光客が増加したものの、離農者による耕作放棄地も増加。「伝統的な美観を守りたい」との思いを持つ写真家の声かけで「棚田支援隊」を募り、現在は「棚田守り隊」なども新たに発足。

### 取組内容

都市住民のボランティア支援グループ「棚田支援隊」「棚田守り隊」「天コンクラブ」「棚田ファンクラブ」「棚田サポーター」と連携。地元組合と、各グループで、農地の維持や農作業を分担。参加型イベントを開催。

### 取組の成果

当初10数名だった会員は、関東・関西の都市住民の登録もあり、現在約300名。耕作放棄地の70%は稲作で復田し、その収穫米は通常米の約2倍の価格で市場に流通。蕎麦や彼岸花なども植えて美観の再生維持も実現。2013年「田園自然再生コンクールオーライ!ニッポン賞」ほか受賞歴多数。



### 一言アドバイス

「苦農から楽農へ」がモットーです。遊び感覚で棚田に多くの人が集まって、楽しく農作業をして、収穫の感動を共有するなど、まずは「交流人口」を増やすことが大切だと思います。

# 農家民宿が連携して 地域の魅力を発信



吉備中央町



農家民宿 推進協議会  
農家民宿「みっちゃん」

女将  
田中 美津子 さん  
(たなか みつこ)



野山の景色や芝生が広がる  
農家民宿「みっちゃん」

## 町と農家8軒が力を合わせて実現。 「プチ移住体験」できる農家民宿。

### 滞在型観光で「田舎の日常」の魅力を発信。

これまで道の駅への買い物など、通過型観光が大半だった吉備中央町。町では2011年から民泊事業の検討を始め、説明会や先進地視察などを行い、取組を希望した農家とともに民宿運営を研究してきました。そして2016年4月、60～80代の夫婦が営む8軒の農家民宿が一斉に開業。全戸で約40名が宿泊でき、どの宿も稲作体験や野菜の収穫、オーナーと一緒に調理も楽しめます。さらに各宿で特徴的な体験も用意。例えばこだわりの郷土料理が評判の「みっちゃん」は、大人気のおはぎづくりやわら細工などが体験でき、ハラル料理も対応可能な民宿です。

※ハラル料理…イスラム教徒の戒律にのった料理



### きっかけ

過疎化対策と地域活性化のため、宿泊や自然型体験&農業体験を企画。地域のよさを知ってもらい、交流人口の増加や移住・定住の促進につなげたいとの考えから、吉備中央町協働推進課が農家民宿運営を町民に呼びかけ、取り組むことになりました。

### 取組内容

農家民宿8軒で「吉備中央町農家民宿推進協議会」を立ち上げ、宿泊予約受付や民宿の紹介をする事務局を町協働推進課内に設置。合同イベントや、交付金を受けてモニターツアーを実施。

#### 《活用事業》

- 農山漁村振興交付金

### 取組の成果

町が事務局として宿泊を仲介し、緊急時の連絡体制も整備。農家から「安心して運営でき、生活に張りが出た」、宿泊客からは「農家の人との触れ合いが楽しかった」という声。学生、親子、外国人など対象を変えて宿泊を募った、モニターツアー客の声も運営に生かしています。



### 一言アドバイス

民宿を開くには、家をどこまでリフォームするかが課題です。また、田舎暮らしの体験では、こちらで当たり前のことが危険になることもあり、それを予測した対応も大切です。

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

# 都市のニーズに応える 「地産都消」の直売所

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



美作市



道の駅 彩菜茶屋

主任  
松田 元久 さん  
(まつだ もとひさ)



「彩菜ブランド」のひとつ  
「万善かぶら」

## 都市住民が喜ぶアンテナショップで 地域農業振興&農業者の所得向上へ。

大阪に販路を開き、登録生産者数が5倍以上に。

湯郷温泉郷にほど近い「彩菜茶屋」は、1994年に勝英農協が主体となって美作産農産物の直売所として設置。第3セクター「(有)特産館みまさか」が運営し、1997年に道の駅に。2003年度から年間売上げが3億円を超えるまでになりました。2009年には大阪府箕面市に、直営2号店「彩菜みまさか」をオープン。希少な伝統野菜の「万善かぶら」や柔らかくて香り高い「日指ごぼう」、霜を降らせて糖度を高めた「寒締めホウレンソウ」など「彩菜ブランド」認定野菜のほか、産地直送の新鮮野菜が評判。今や開店前から行列ができ、午前中から売り切れが続出しています。



### きっかけ

「彩菜茶屋」の将来の売上げ低迷を見越して、その対策を考えるため、2007年に登録生産者にアンケートを実施。生産者の約半数に出荷余力があることがわかり、「地産地消」から「地産都消」へと、都市部への販路拡大を目指すことになりました。

### 取組内容

生産者自らが大阪の店に赴いて対面販売するほか、美作市で開く都市住民との交流イベントに参加。直接消費者の声を聞くことでニーズが把握でき、その経験を野菜づくりに反映。

### 取組の成果

「彩菜みまさか」には一日2便のトラックで産地直送。2015年度の売上げは同店だけで8億円近くに上り、「彩菜茶屋」との合計は約11億4千万円。生産者の士気が高まり、約200名で始まった登録生産者数は約1,030名に。トウモロコン狩りなど箕面市民との交流イベントも好評。



### 一言アドバイス

直売所に興味を持っている人が気軽に問合せできるようにしています。出荷量の大小は問いません。売り手としては、「農家の代弁者」だという気持ちで、商品の食べ方や背景などの質問にすぐ答えられるように知識を持つことが大切ですね。

# 特産の干し柿を核にした 地域活性化



農事組合法人  
山ノ上干柿組合

代表理事  
**土井 良雄** さん  
(どい よしお)



加工施設で作った  
「山ノ上ほし柿ようかん」

## 伝統を守る産地で進めた近代化、 ブランド力も高まり交流も活発に。

### 干柿づくりを核に地域活性化の取組も。

陽光に恵まれ、霧や夜露の心配のない特有の土地条件があり、古くから干柿づくりの伝統を守る矢掛町北部山間地域。農事組合法人を立ち上げ、高齢化による産地疲弊を防いだ「山ノ上干柿組合」では、農村と地域住民、学生等との交流による干柿のさらなるブランド力向上と、地域活性化の取組を始めています。新たな需要開拓を目指し、シンガポールへ試験輸出したのは2012年。この経験を生かし今後の国内外への出荷拡大に向けた体制整備も進めています。また高齢化や狭い水田の耕作放棄対策として苗木の新植などを行い、産地の維持・発展を目指しています。



### きっかけ

江戸時代からという歴史を刻む「干し柿の里」でありながら、過疎化が進み現在地域の世帯数は18戸。特産の維持には、共同作業による効率化が急務に。また、「農産品ではなく食品」の位置付けでの衛生面などの技術向上や後継者育成も課題になっていました。

### 取組内容

「横づり式」ハウス乾燥製法の普及による衛生・品質向上。農事組合法人(組合員36名)を2015年に設立し共同加工場、乾燥ハウスを整備。小学生などを対象とした作業体験、「山ノ上干柿まつり」開催などの伝承・交流活動。

#### 《活用事業》

- 経営体育成支援事業
- 人・農地問題解決加速化支援事業

### 取組の成果

干柿祭りが年々盛大になり、干柿だけでなく地域の知名度も向上。交流を継続する学生が皮むき体験や「雲の上カフェ」などのアイデア・企画を立ち上げ、新ビジネスの機会創出につながっています。メディアでの紹介などで産地見学の遠来も増加。



#### 一言アドバイス

干柿づくりを第三者視点で変えてくれたのは、定年まで勤めた食品メーカーでの経験が役立ちました。思わぬところでこれまでの前職の経験が生かせるものです。また、担い手不足の解消には法人設立が必須かも。

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

# 直売所発、全国展開を目指す 6次産業化

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



株式会社 みつの里  
代表  
**成廣 義武** さん  
(なりひろ よしたけ)



## 地域のニーズに応え、直売所を開店。 6次産業化の取組に発展し、地域活性化へ。

皮が極めて薄く、高糖度のミニトマト「ジュリエッタ」

### トマトをドレッシングなどに加工し、全国流通へ。

「地域を盛り上げるために、強い産業をつくる」を理念に、農業参入。直売所も兼ねる商業施設『みつの里』では、トマト、米、露地野菜などの自社生産品を販売するだけでなく、地域の農業者が生産した作物も委託販売するなど、地域ぐるみの農業振興を目指しています。さらに、生産から販売までの工程で生まれる雇用を地域で創出することに加えて、農家のさらなる自立を目標に、2015年からトマトをドレッシング、ジャム、ソフトクリームなどに加工して販売開始。ファームでの体験農園の開始を画策するなど、農業を軸とした地域活性化へ向けて邁進中です。



#### きっかけ

地域の商店が次々と閉店したことで買い物に困る住民のために、コンビニ・農産物直売所・飲食店などで構成された、複合商業施設『みつの里』を開店し、自社で生産できる作物としてトマトに注目。トマトの味をより広く伝えるため、収穫した一部を加工して販売開始。

#### 取組内容

地域の農産物の委託販売も行う、直売所の運営。トマトを加工し製品化した、ジャムやドレッシングを、全国流通。糖度の高い希少ミニトマト「ジュリエッタ」を生産。

#### 《活用事業》

- 6次産業化ネットワーク活動交付金

#### 取組の成果

『みつの里』の来客数は毎年20%増加し、遠方からもトマトや野菜を求めて、消費者が足を運んでいます。ただ車で通過する町だった御津に人が立ち寄ることで、地域が活性化。ドレッシングやジャムは販路を広げ、岡山県内だけではなく、関西圏や関東圏でも販売されています。



#### 一言アドバイス

6次産業化の基本は、農産物の品質を落とさないこと。そのために、製品化は専門家に依頼する方が良いです。加工、デザインなど全てを自分でやろうとすると、製品化までに時間がかかります。



# 集落で手掛ける干しぶどうの地域ブランド化



方谷の里  
農産加工部

部長  
**横山 正男** さん  
(よこやま まさお)

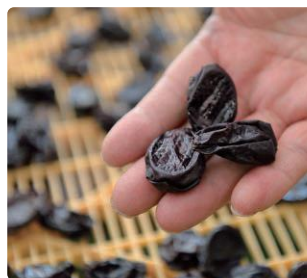


看板商品でもある  
干しぶどう「雲海シリーズ」

## 高品質な地元素材をさらに活かす 付加価値の高い地域ブランドづくりを。

### おいしい新鮮果実をプレミアムな干しぶどうに。

吉備高原の環境を生かして栽培される、風味よく、甘味も強い良質のぶどうを数日かけて乾燥させ、無添加でクオリティの高い大粒の干しぶどうに加工。「雲海シリーズ」と名付けて販売しています。強い甘味と爽やかな酸味は「ほかにない」と好評。ドライピオーネは、ポリフェノール豊富で皮ごとおいしく食べられ、健康志向の方に特に喜んでいただいています。引き続き、よい製品づくりを続けるには、良質材料の確保が欠かせません。この安定供給のため、地域おこし協力隊、地元JA、生産者との連携を強化しています。



### きっかけ

地元のピオーネに限られた収穫時期だけでなく一年中提供できないかと考え、2010年に既存の乾燥器を使い干しぶどうづくりに挑戦し約80kgを作りました。翌年には市の補助金で電気乾燥機を1台追加し本格的な生産を開始しました。

### 取組内容

「岡山県6次産業化グループ協議会」の一員として部員16名(男7・女9)で取り組む「地域ブランドづくり」。原価を抑えた「原材料供給の体制づくり」のために加工品向けピオーネの提供を中井・神原ぶどう部会に依頼。部員もぶどうの栽培にチャレンジ。

### 取組の成果

岡山県農林漁業功労者表彰を受賞(農山漁村活性化部門)。また外部市政アドバイザーの支援で2017年春、干しぶどうがANA国際線ファーストクラスの機内食の一品に採用。定期購入の数も徐々に増え、新しい製品開発にも着手。



### 一言アドバイス

干しぶどうの国内市場規模は約65億円もありますが、そのうち国産のぶどう原料のものが占める割合はわずかに約1%。よいものを作ればまだまだ販路の広がる可能性は大いにあると思います。

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

# 集落営農法人の設立と 経営の多角化

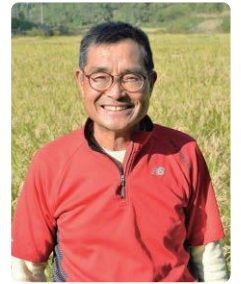
都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



農事組合法人 アグリモモ  
副組合長  
草苅 修 さん  
(くさかり おさむ)



水田ごとの食味までこだわる米づくり

## 法人化して農地集積も急加速。 手作りのカフェ・直売所もオープン。

### 農地中間管理事業を活用、地域に希望と活力を。

「中山間地」の言葉そのもの、山合に小さな水田が点在する地域。しかし発想の転換をすれば、豊かな緑と自然、清水に恵まれた美しき里山。ここで丹精込めたおいしい米づくりのため、草苅さんたちは農作業の共同化を進めてきました。法人化してからは農地集積も本格化。水田ごとに育成管理や食味チェックを行うなど「さらにおいしい米づくり」にこだわっている。直接消費者に届けようと、建築や土木が得意なメンバーと手作りで農産物直売所「黄多和家(きたわけ)」をオープン。匠技の米づくりを評価する客で賑わうようになりました。



### きっかけ

2011年、主に高齢化対策のための作業受託を、近隣農家有志でスタート。農地の荒廃防止など一定の成果があり、多彩な人材約40名が「もっと地域に元気を」と集まり、法人化。様々な経験や職能を生かしての多角的な活動を行うようになりました。

### 取組内容

農事組合法人による作業受託。作付けの合理化や鳥獣被害などに効率よく対処するための、農地集積・作業の集約化。また子どもたちと農業を結ぶイベントなども企画・実施。

#### 《活用事業》

- 人・農地問題解決加速化支援事業
- 農地中間管理事業

### 取組の成果

「自慢の米を直接消費者に」という発想から着手した、カフェ併設の直売所を整備。現在は20代の社員2名を迎えるなど法人としての体制が整い、きゅうりなどの野菜栽培による多角化でも経営安定化を図りつつ、地域農業の一層の発展を目指しています。



### 一言アドバイス

おいしい米を作る、儲かる野菜を作るなどの目標実現に大切なのは農業のプロフェッショナルとしての仕事。法人化すれば専業として打ち込み、経営観や長期視点の構想も育めると思います。

# 環境保全型農業で 儲かる農業の実現



株式会社 城北農産  
あいがもファーム

取締役  
谷口 誠一 さん  
(たにくち せいいち)



アイガモの活躍で実った  
「勝山あいがも米」

## アイガモとともに有機米づくりを30年。 長年の信頼と農地集約が収益のカギ。

### 事業を継続し、地域農業を守るために法人化へ。

「無農薬の玄米が欲しい」。そんな声に応えたいと、旧勝山町の若手を中心に前身の「勝山町無農薬米生産組合」を発足。約30年間、稲をアイガモとともに育てる有機栽培「アイガモ農法」に励んできました。手間の割に収益を上げにくい農法ですが、ブランド米として評価され、高値で食料品店や直売所に卸しています。また、地元で兼業農家が多く、田植えや稲刈りなどの農作業の受託も行い、収入安定を図っています。同組合は2014年に法人化し現在名に。農地中間管理機構（農地集積バンク）を紹介するなどして集約された農地約6haを借り、収益増を目指しています。



### きっかけ

2014年から都道府県に設置された農地中間管理機構。この事業を利用するには任意組合のままでは農地が借りれないことから「株式会社 城北農産あいがもファーム」として法人化し、農地を借りることでより事業展開しやすくなるようにしました。

### 取組内容

兼業農家の構成員8名とアルバイトが、都合の良い時間帯に農作業。5月に苗づくり、6月上旬の田植えの約10日後までにアイガモのヒナを水田へ。9月下旬～10月中旬に稲刈り。地元農家の農作業も受託しています。

#### 《活用事業》

- 環境保全型農業直接支払交付金
- 農地中間管理事業

### 取組の成果

農地中間管理機構から農地を集約して借りたことで作業効率がアップ。特Aランクに指定されて人気急上昇中の「きぬむすめ」など、品種ごとに効率よく育てることができています。地域の生徒たちがアイガモに餌やりをするなど、食育や心のオアシスの場としても役立っています。



### 一言アドバイス

農業や化学肥料を使わない有機栽培は、一般の作物と分離し、使用機械もすべて清掃して生産から出荷までする必要があります。手間がかかるだけに、個人ではなく仲間と一緒にすることで有利な事業展開が可能です。

# 新規就農者を呼び込む ほ場整備

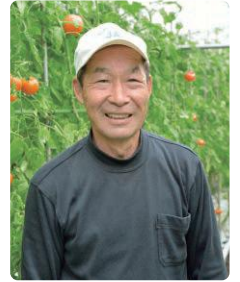
都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



JA阿新トマト部会  
部会長  
**橋本 澄男 さん**  
(はしもと すみお)



完成したトマト団地で  
新規就農がスタート

## 販売単価は全国トップレベル！ ほ場整備で「やる気」の人材を引き寄せる。

### しっかり根を張る、新規就農者のトマト栽培を応援。

一部は標高約550mを超える県北の冷涼な気候を生かし、夏秋トマトを有力特産に育て上げたJA阿新トマト部会。発足45年、各農家の研鑽、先進ノウハウの地域共有などの努力を積み重ねた結果、その品質やブランド力も定評のあるものに。しかし高齢化などが進む中、今後の出荷拡大は中山間地の共通のテーマ。この地域では、栽培面積の拡大に向けたほ場・施設整備などにより、担い手の確保・育成を進め、2017年には新たに整備されたトマト生産団地に1ターンした青年が就農するなど、その成果が期待されています。



#### きっかけ

地域の過疎化は深刻で産地としての将来を考えれば、若い後継者の発掘や育成が必然で最重要課題。このため儲かる農業ができるよう環境を整え、アイデアを出し合っ、都市での就農相談会、産地の見学ツアーや研修なども企画。

#### 取組内容

新規就農者の経営開始に向けて2.4haの農地を造成。新規参入者の確保支援、栽培開始前の技術支援、参入後の技術支援を実施。ハウスや養液土耕設備の導入など施設費の1/2内の助成導入もバックアップ。

#### 《活用事業》

- 中山間地域総合整備事業
- 儲かるおかやま園芸産地育成事業

#### 取組の成果

新見市北端の神郷高瀬地区に整備中だった県と市による1.2haのほ場整備が2017年春完了。東京から移住し、1年間の就農研修を経た鎌田茂さん夫妻が最初の新規入植者となって10a、ハウス4棟の施設を整え順調な出荷をはじめ、農家への転身の第一歩を踏み出しました。



#### 一言アドバイス

行政やJAとの連携に加え、最後の決め手となるのは地域住民が自ら産地や郷土の衰退を防がねばというやる気を持っているかどうか。危機感だけでなく、1ターンの方も引き付ける意識改革が必要です。

# 耕作放棄地の再生で 就農者の農地確保



久米南町



JAつやま久米南  
ぶどう部会

代表  
**青山 仁 さん**  
(あおやま ひとし)



新規就農者が育てた  
「シャインマスカット」

## 耕作放棄地を再生・利用！ 移住者とともに「ぶどう産地」復活へ。

### 新規就農者を地域ぐるみで受け入れる。

耕作放棄されたぶどう園を全て再生し、かつての「ぶどう産地」としての姿を取り戻した久米南町。「JAつやま久米南ぶどう部会」では、さらなる栽培面積拡大や「オーロラブラック」といった新品種の栽培を目指し、ベテランの農業者と県内外から移住した新規就農者が二人三脚で取り組んでいます。縁もゆかりもない土地で就農した彼らを支えているのは、部会による細かな技術指導や住宅確保の支援など地域ぐるみのサポートです。また若手が活躍することで「新農業経営者クラブ」が再結成されるなど地域全体の活性化にもつながっています。



### きっかけ

1963年の結成当時に45名が在籍していた「ぶどう部会」は、高齢化と後継者不足が進み、2002年には27名にまで減少。手入れができず増え続けていった耕作放棄されたぶどう園の対策として、県内外からの就農希望者を募集することに。

### 取組内容

就農希望者とベテラン農家が協力しての「農地再生」。就農者に技術と知識を伝える「初心者会」を定期的開催。就農希望者に向けた「ぶどう体感研修」実施。

#### 《活用事業》

- 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金
- 荒廃農地等活用促進交付金

### 取組の成果

新たに16名(内研修生3名)が就農。2008年に63歳だった平均年齢は54歳になり、栽培面積も21haから25haへ。部会員の平均耕作面積は84aと県下随一。2017年には過去最高の出荷量を達成しました。



### 一言アドバイス

ただ受け入れるではなく、一緒に長く続けていくためにも「新規就農者が自立し、生活していけるかどうか」を目標にしてください。そのためには各組織の連携や、地域での生活面のサポートが大切です。

都市住民との交流

農産物加工・6次産業化

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

# 農業参入法人による 地域農業への貢献

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

真庭市



株式会社日本植生グループ本社  
NISSHOKU FARM 備中高原北房農場  
農場長  
**長谷川 圭則** さん  
(はせがわ よしのり)



大粒で宝石のような  
シャインマスカットとオーロラブラック

## 伝統の技と最新技術が融合。 事業が認められて人材育成にも挑戦。

### 品薄の時期も高品質のぶどうを国内外に提供。

標高約430mの備中高原で「日本植生グループ」が営むゴルフ場に隣接して2009年に農場をオープンし、2017年はぶどうを1.2ha、野菜を0.7haの畑で栽培。特にぶどうに力を注ぎ、「カリスマ指導員」を迎えて7種類の大粒ぶどうを育てています。山の落ち葉や茅を敷き詰めて自然の山に近い土壌環境を再現するなど地域の伝統技術も取り入れ、健全な樹勢を保つことで低肥料・低農薬に努めています。高地のため熟期が遅く、最新低温貯蔵庫を完備しているため冬季も高品質のぶどうが出荷可能。2016年から県や市と連携して研修生の育成にも力を入れています。



#### きっかけ

主に植物関連事業で環境創出をしてきた「日本植生グループ」の「日植アグリ株」では農業関連資材を販売し、ピオネの一大産地・真庭市のゴルフ場予定地に遊休農地を保有していました。そこで、ブランド化を目指し、ぶどうを中心とした農業を手がけることに。

#### 取組内容

経営面積は果樹・野菜畑合わせて2haで、ぶどうは2014年から海外輸出をスタート。野菜は地元で販売。就農を希望する研修生を受入。

#### 《活用事業》

- 就農促進トータルサポート事業

#### 取組の成果

抜群の日当たりと高原の大きな寒暖差を生かし、甘さと色をしっかり引き出した大粒のぶどうは海外の富裕層にも評判。9～10月上旬の収穫時の鮮度を独自技術の低温貯蔵庫で保ち、冬季に入っても出荷を実現。国内の小売販売のほか、多くは香港やシンガポールなどへ輸出されています。



#### 一言アドバイス

まずは農業を好きになること。ただし、自然に触れたいという憧れだけで農業を続けるのは難しい。ブランド化するなど『何て戦うか』、そして生産物をどこに売るかをあらかじめイメージしてから始めるべきだと思います。

# 安定した営農環境を支える 共同活動



吉備中央町



円城広域組織

代表(水士里ネット円城 理事長)

杭田 元 さん

(くえだ はじめ)

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり

## 持続可能な地域づくりを目指し、 円城地域全体で多彩に共同活動。



円城地域の赤土に合う「円城白菜」をはじめぶどうやコメの栽培も盛ん

### 高齢化&過疎化による人材不足に心強い「広域組織」。

標高200~400mの吉備高原には県下初の道の駅「円城」があり、その周辺の4集落が「広域組織」となって、様々な共同活動をしています。活動目的は、老朽化した施設の維持管理(長寿命化)や安定的な営農環境を守ること。各集落のリーダーが集まって話し合うことで、合意がスムーズになりました。大型機械の活用で、農道や遊休農地の保全管理の負担も減っています。地元小学生には名物「円城白菜」の栽培から収穫、道の駅での販売などの体験学習を提供。移住希望者向けに田舎暮らし体験ツアーも開き、後継者確保にも力を注いでいます。



#### きっかけ

高齢化や過疎化が進んだ農村の多面的機能維持のため、地域の共同活動を支援する「多面的機能支払制度」。この制度を効率的に活用するため、円城地域全体の5組織(4集落)が2016年から「広域組織」となり、地域ぐるみで多様な活動に取り組むようになりました。

#### 取組内容

14haの遊休農地を再生。円城地区全体の4集落・約300戸が構成員になっており、地域ぐるみで農地維持と資源向上(共同、長寿命化)を推進。専任事務を設置して管理。

#### 《活用事業》

- 多面的機能支払交付金

#### 取組の成果

「広域組織」の認定面積は、田と畑を合わせて162haに上っています。広域組織のため、話し合いの機会が増えるとともに、活動資金を継続して交付してもらうための報告書も作成しやすくなりました。地元の農業生産法人「吉備の国野菜村」が遊休農地で減農薬栽培した野菜を加工してデパートなどで販売したりと、新たな産業展開も。



#### 一言アドバイス

各集落がこれまでやってきたことを壊して新たな組織にするより、独自の活動を尊重する方がまともやすかったです。公付金を交付してもらうには報告書の作成も必須で、広域にするとその人材も確保しやすいです。

# ヤギ・ヒツジによる除草で 効率的に農地を維持

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



岡中山間地域振興組合  
組合長  
**実盛忠義** さん  
(じつもり ただよし)

## 集落ぐるみで「支え合う農業」を。 ヤギ・ヒツジの力を借りて農地を維持。



羊毛から手作りのニット製品と  
草木染めした毛糸

### 一頭一頭が一日約3kgの草を食べて除草。

山間部の岡地区では高齢・過疎化が進んだことから、農業の生産条件が不利な地域を支援する「中山間地域等直接支払制度」に取り組むこととし、2006年に農家18戸で「岡中山間地域振興組合」を結成。同制度の交付金を農作業の負担軽減に役立てています。不在地主の広大な農地維持のため、2009年から順次、斜面の草を好むヤギと平地の草を食べるヒツジを放牧し、除草作業がずいぶん楽になりました。地主が高齢で管理できない農地では組合員が共同でサツマイモやジャガイモを育てて、地元の学校給食に提供。ドローンを飛ばして水稻の農薬散布も行っています。



### きっかけ

高齢化や過疎化により、地主が耕作できなくなった農地が増加していた岡地区。そこで、集落ぐるみで力を合わせて農地の保全と営農の継続に向けて取り組むため、地区内の農家で組合を作って交付金の支払制度を利用しようということになりました。

### 取組内容

組合員が共同飼育することで集落内の話し合いが活発になり、羊毛の作品づくりも励みに。遊休農地にコスモスやヒマワリを植えて景観づくりも。共同栽培した野菜は学校給食として提供し、地産地消の食育に繋がっています。

### 《活用事業》

- 中山間地域等直接支払交付金

### 取組の成果

何段階もの工程は全て手作業で、ヒツジの毛は刈り取り、地元の空き家を改装した工房で洗浄して糸車で紡いで毛糸に。それを草木染めにして、手編みでセーターや帽子などを作っています。製品はインターネットなどで販売。地域の高齢者の生きがいづくりにも役立っています。



### 一言アドバイス

人や機械が作業に入ることが困難な急斜面でもヤギは喜んで上って草を食べてくれます。遊休農地で動物を飼うことは地域の癒しにもなりますが、病気の予防など、気を配ることが多いことも忘れて。



# 放牧による里山風景の再生



高梁市



農事組合法人 西山維進会  
代表理事  
**吉家 仁さん**  
(よしいえ ひとし)



放牧雌牛が生んだ子牛も  
すくすく成長

## 基幹作目の生産振興を図りつつ、地域の農村景観の保全にも着目。

### ニューファーマーの力も得る「維進会」。

高梁市の西北端、標高500m前後の緑豊かな高原にある本地域。10余年前に大規模なトマト、ピオーネの園芸団地が整備され、それ以降積極的に農業への強い思いを持つ新規参入者を受入れてきました。その結果、30代夫婦中心に多数の若手が担い手として定着し、今では地域コミュニティを牽引するほどに。そんな彼らも加え、より地域の農業・農村振興を図るべく結成したのが「西山維進会」。現在は主に、休耕水田での繁殖雌牛放牧飼育に力を注いでおり、農地の遊休化・荒廃化を防止するだけでなく、美しい里山風景の再生や維持を目指しています。



### きっかけ

他の地域で取り組んでいた休耕田放牧を見かけ、畜産経験のないメンバーでもできる農地保全の道を模索。JAと相談の結果、岡山県農林水産総合センターから雌和牛2頭をレンタルし、2013年5月に耕作放棄地約60aで放牧を開始しました。

### 取組内容

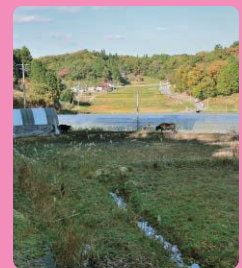
2013年に農家16名で任意組合として発足。2017年1月に法人化し、同年5月時点で4.5haの荒廃農地を放牧で管理している。また、新規就農促進のために、週末・日帰り農業体験プログラムや見学イベントなどを開催。

#### 《活用事業》

- 国産粗飼料増産対策事業
- 農地中間管理事業

### 取組の成果

団体を法人化し、現在は農地中間管理機構を通じた借地契約を結んで放牧を始めています。放牧地で誕生した子牛も利益を出し、母牛は4頭増やし8頭体制に。また、水稻・トマト・ピオーネの作業受託も始め、多様な手段での農村景観の維持を進めています。



#### 一言アドバイス

岡山県には、畜産経験のない農家でも放牧による耕作放棄地等の再生・保存のできる支援体制が整っていると実感しています。やる気があれば、美しい農村の風景がきっとよみがえります。

都市住民との交流

6次産業化・農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う体制づくり

# 集落ぐるみで鳥獣害を防ぐ

都市住民との交流

6次産業化・  
農産物加工

集落営農

新たな人材確保

協働で支え合う  
体制づくり



関本地区(町内会)  
関本地区区長  
**前原 要**さん  
(まえはら かなめ)



## 集落全体を柵で囲むことで 安心して黒大豆づくりを再開。

柵を縦置きにすることで高さ2mに  
シカ対策に効果大

### 協働する機会が増え、集落内の絆が深まった。

奈義町関本地区では、数年前からニホンジカやイノシシが集落の田や黒大豆畑を荒らすようになり、多大な損害を被っていました。そこで、山際から集落への獣の侵入を防ぐ柵を設置。住民で協力して、元は1m20cmの高さだったワイヤメッシュの柵を2mにし、全長約3.5kmに渡って取り付けました。おかげで獣による農地への被害がなくなり、中断していた黒大豆づくりを再開。柵につらが絡みついて倒壊するのを防ぐために、年に2回除草剤をまいたり、イノシシが穴を掘り侵入していないか点検をしています。日程や作業分担など集落で話し合う機会が増え、絆が深まりました。



### きっかけ

以前は、個人ごとに柵で対策をしていましたが「柵を設置していない畑に被害が出る」という、悪循環に陥っていました。2013年の奈義町全体での鳥獣被害額は約1,350万円。集落全体の侵入を防ぐことを県から提案され、補助金制度を利用し設置しました。

### 取組内容

集落の農家で協力して、除草剤の散布や、柵の点検。黒大豆の生産再開と、栽培方法の改良。シカやイノシシを捕獲するために、罠を設置。

#### 《活用事業》

- 鳥獣被害防止総合対策交付金

### 取組の成果

集落への侵入のために柵の際を歩く獣を狙い、罠を設置。2012年は関本地区内でのニホンジカの捕獲数が4頭でしたが、2015年には95頭になりました。黒大豆畑の被害がなくなったため、安定して栽培できるようになり、収穫量は以前よりも増加。



### 一言アドバイス

集落柵と併せて罠を設置し、獣の侵入を防ぐと同時に捕獲することに力をいれることで、効果が格段に上がります。また、捕獲には協力人員が必要なので、共同で支え合う意識が必要です。

---

お問合せ先

---

**岡山県農林水産部 農村振興課**

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL.086-226-7442

[発行日] 平成30(2018)年1月

※本冊子は中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用して作成しました。  
※無断転載・複写を禁じます。

# 晴れ☀ひと ファーム

中山間地における  
農業・農村活性化優良事例集

